

震災とKIITO

【連載企画】
神戸ぐらしはじめました。
〇〇さんの神戸めし：西田博至
世界のデザイン都市ガイド[バーレーン・ムハッラク]



震災とKIITO

いつまでもずっと
やり続けなければ
いけないこと。



阪神・淡路大震災30年の節目となる本年、神戸では数多くの記念事業が行われています。KIITOでも2012年の開館以前から、震災や防災にまつわる様々なプロジェクトや防災プログラムなどを展開してきました。その活動のいくつかを振り返るとともに、これからのことを見据えた話をセンター長の永田宏和さんに聞きました。

永田宏和

1968年兵庫県生まれ。KIITO開館時に副センター長に就任。2021年よりセンター長を務める。2006年に設立したNPO法人プラス・アーツの代表として、様々な防災プロジェクトの企画、運営も行っている。

神戸ぐらしはじめました。

22人目

根岸浩章さん
(フリーランス/神戸大学大学院)



神戸歴:3年8ヶ月(取材時点)
実家のある和歌山を出て、大阪、神戸、サマオ、島根で暮らして、2024年4月に7年ぶりに神戸へ戻ってきた。現在は大学院に通い文化人類学を学びながらフリーランスで教育関係の仕事に従事。そんな根岸さんのお気に入りの場所「灘温泉」のある水道筋商店街で取材をさせてもらいました。

神戸への移住、最近増えているそうです。神戸に越して間もないあの人に、気になる質問をぶつけてみました。

Q.2度目の神戸生活、いかがですか？

神戸は「ちょうどよさそうな街」だと思って来ましたが、その感覚は今も変わらないですね。自然との距離感、海と山が一度に楽しめるところがいいと感じています。神戸で好きな場所は「水道筋商店街」と「灘温泉」。おばあちゃん達がおしゃべりしているのを見かけたり、銭湯を目的にいるんな人が出入りしているのが面白くて。神戸市内の商店街を全部見比べて、水道筋が一番面白いと言ってゲストハウスの運営を始めた知人もいます。地元

にも商店街はありましたが、神戸に来てから商店街の面白さに気づきました。「灘温泉」には温泉と源泉があって、アツアツの温泉とぬるめの源泉を行ったり来たりするのがお気に入りの過ごし方です。最近では研究室と自宅の行き来が多いですが、神戸の人に興味があるのでもっといろんな場所に足を運んでみたいです。

イラスト:真藤愛

西田博至さんの神戸めし

味香園の「牛肉湯麺」



みなと元町駅から徒歩3分ほど、元町商店街のそばにある「味香園」の店内はどこか懐かしい雰囲気。20年前に奥様が連れてきてくれたことをきっかけに、仕事終わりに待ち合わせてよく来ていたそう。西田さんの食の好みは保守的のとのこと、一度食べて美味しかったものは何度もオーダーし、気に入ったお店には何度も足を運ぶ。そんな西田さんにとっての「味香園」は安心の味。牛肉湯麺(牛肉の汁をそば)に加え、ピータン、揚げワタタンも頼むのがお決まり。「それでもメニューは毎回すべて目を通すんです。いつも通りで、とは言わない」。メニューを眺める西田さんの様子からもお店への信頼が感じられた。

味香園
神戸市中央区元町通4-1-10 光明ビル2F

22. 西田博至さん
(神戸市立三宮図書館 館長)



2022年春から神戸市立三宮図書館の館長として着任。甲南大学人間科学研究所客員特別研究員も務める。

Q. 答えてくれた人

Haya Al Sadaさん

バーレーン文化・古代遺跡跡で15年以上文化芸術分野に携わり、最近バーレーン博物館局長に任命されました。大規模な公共文化事業やフェスティバルのプロジェクト創造、管理、運営を担っています。



今号のデザイナー | 大槻智央 1990年尼崎生まれ、グラフィックデザイナー。宣伝美術を主に、装幀、CI・VI設計や書体開発等、幅広く創作を行っている。otsukichihiro.com

KIITO NEWSLETTER VOL.042

2025年3月発行

「KIITO NEWSLETTER」は、デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO)が年4回発行する情報誌です。センターのコンセプトである+クリエイティブな活動を発信していきます。

発行: デザイン・クリエイティブセンター神戸
編集: 竹内厚、KIITO出版部
デザイン: 大槻智央(ミヤク)
発行: デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO) 〒651-0082 兵庫県神戸市中央区小野浜町1-4 TEL: 078-325-2235 E-mail: info@kiito.jp 開館時間: 9:00-21:00 休館日: 月曜日(祝日、振替休日の場合はその翌日) 年末年始12/29-1/3 https://kiito.jp/

KIITO:

ACCESS

阪急・阪神神戸三宮駅、JR三ノ宮駅より
フラワーロードを南へ徒歩20分
神戸市営地下鉄海岸線三宮・花時計前駅より徒歩10分
ポートライナー貿易センター駅より徒歩10分
運路バス[Port Loop]KIITO前下車すぐ

CONTACT

デザイン・クリエイティブセンター神戸(KIITO) 〒651-0082 兵庫県神戸市中央区小野浜町1-4 TEL: 078-325-2235 E-mail: info@kiito.jp 開館時間: 9:00-21:00 休館日: 月曜日(祝日、振替休日の場合はその翌日) 年末年始12/29-1/3 https://kiito.jp/



KIITOで 最初期の プロジェクト



阪神・淡路大震災＋クリエイティブ タイムライン マッピング プロジェクト

阪神・淡路大震災の発生直後からの被災地でのクリエイティブ分野（アート／デザイン／建築）の支援活動をリサーチして、年表に落とし込んだアーカイブをウェブサイトで広く公開。発起人であるSPREADとKIITOが事務局を務め、2012年にはKIITOで年表が展示された。更新は2020年頃まで行われ、その記録は今も見ることができる。

<https://tm19950117.jp/>



EARTH MANUAL PROJECT

神戸や東北だけでなく、インドネシア、タイ、フィリピンなど海外でのクリエイティブな防災活動を集め、国境を越えて共有するプロジェクト。2013年にKIITOで開催した展覧会は2020年までに4か国を巡回。収集された防災活動のあれこれは今もウェブサイトで見ることができ。

<https://www.earthmanual.org/>



震災 10年から KIITOへ



イザ!カエルキャラバン!

2005年、永田が代表を務めるNPO法人プラス・アーツと藤浩志が考案した、楽しみながら学べる防災体験プログラム。全国各地で形を変えながら次々と実施され続けている。開催地の子ども達や活動の担い手を巻き込んで、コミュニティ再生プログラムとしても進化中。

<https://kaeru-caravan.jp/whats>



「EARTH MANUAL PROJECT」が国際的な枠組みのプロジェクトになったのは、KIITOという施設の特徴もありますが、僕がKIITO以前、2005年から始めた「イザ!カエルキャラバン!」を海外でも展開し始めて、訪れた先のアジアの国々で防災にまつわる秀逸な活動を教わる機会が増えていたことも大きなきっかけになっています。神戸から始まった取り組みを伝えるつもりが、向こうに学ぶべきことがたくさんあったんですね。なので、「EARTH MANUAL PROJECT」ではアジア3カ国・9つの活動取材して伝えています。その海外取材はすべて僕が担当しました。そもそも「イザ!カエルキャラバン!」は阪神・淡路大震災10年の年に始まった取り組みで、美術家の藤浩志さんがすでにやっていたアート作品でもあるおもちゃの交換会「かえっこバザール」に、地域の防災訓練を組み合わせたもの。「イザ!カエルキャラバン!」という形に行き着くまでに、藤さんとは事務所に缶詰になっているようなアイデアを出し合ったし、そのために被災者の声をヒアリングすること

KIITOが 果たしてきた 役割

KIITOというのは社会課題解決型のデザインセンター。僕自身、国内外の色々な場所で講演会に呼んでいただいたり、プロジェクトの委員として関わったりしていたり、近々ますます各地の自治体からKIITOへの注目が高まっていると感じています。市民協働センターを立ちあげたけれど、うまく機能させられていないという相談を受けることも多くて、そういった場所や施設があっても、どう運営すればいいかがわからない。図書館などと違って、そのノウハウややり方が共有されていないんですね。昔からある公民館などもある種の市民協働センターといえますが、自前のコンテンツがないので、カルチャー教室のような使われ方が多くなっているのが現状。あと、イベント的な発想だと、その時間をどう盛り上げるかだけを一生懸命に考えるけど、本当はそれをやった後の豊かさまで見通して、そこから逆算してやらないといけない。活動する前後の時間軸まで俯瞰して考えるべきなんです。KIITOの強みはその具体的な事例をたくさん持っていることです。

「BE KOBE」は、シビックプライド・メッセージとしても広まっていますが、これも実は阪神・淡路大震災20年をきっかけに生まれたもので、久元喜造

BE KOBE

阪神・淡路大震災から20年をきっかけに生まれたシビックプライド・メッセージ。「BE KOBE」のロゴマークとキャッチコピーを広めるとともに、神戸で活動する73人のインタビューを公開。また、神戸市はBE KOBEのモニュメントを市内5か所に設置している。

<https://bekobe.smartkobe-portal.com/>



震災30年を 迎えて

震災30年ですけど、これが節目だとは特に感じていません。震災に関することはずっとやり続けていますし、やり続けなければいけないこと。大きな災害の起きる頻度はますます高まっていて、日本は災害大国だからこそ、阪神・淡路大震災の記憶を絶対に風化させてはいけない。そのためには、新しいちゃんとした担い手をどう育てていけるか、これからのKIITOの活動にとっても大切だと考えています。僕らが防災に取り組みはじめた20年前と違って、今は防災分野に注目が集まっているので、多くの人に関わるようになりましたけど、あまりに根っこがない人や団体も時々見受けられて…。SNSの影響も大きくて、うまいことやる人に注目が集まりがちだけど、震災や防災に関ることってやっぱりそれではごまかせないんですよ。だから、



＋クリエイティブゼミ

2012年のKIITO開館時から続く、デザインの視点で様々な社会課題を解決する方策を導くためのゼミ。講義やグループディスカッションを経て、実際の事業化までつなげることが大きな特徴。震災をテーマにしたものでは、神戸市消防局と実施した第9回のゼミから、若い世代が定期的に集まり防災や社会について語り合える場づくりや、暗闇の中で災害時に行うべき「自助」を疑似体験し、同時に参加する人々と「共助」することで使命を果たし「自助・共助」の大切さを学ぶ「くらやみワークショップ」などのアイデアが生まれ、実際に行われた。

<https://kiito.jp/project/solution/>



市長の思いを体現した、コピーライター岡本欣也さんの考えたステートメントが見事なんです。震災20年を受けながら、「神戸の魅力は人である」という想いを表現したテキストになっています。ただ、KIITOもそうですが、岡本さんもKIITOのロゴをデザインした寄藤文平さんも、クリエイティブに関わった側はそんなに自己主張をしていなくて、どんどん使ってくださいという態度。だからその広がりが生まれるかと思っています。KIITOはいろんな社会課題と向き合ってきて、そこにはすでに多くの経験や知識、情報といったものが蓄積されているけど、それがうまく活用されていないという状況を数多く見てきました。それをより活かす、あるいはその強度を上げる術としてクリエイティブがあって、KIITOとしてそれをやり続けてきたんですね。といっても、クリエイティブが決して真ん中じゃなくて、もっと謙虚な位置にいるというのが。KIITOの正式名称は「デザイン・クリエイティブセンター神戸」ですけど、僕はいつも「+（プラス）デザイン・クリエイティブセンター神戸」だと言って、クリエイティブが主役じゃなくて、社会課題のほうを中心に据えたい。いろんな社会課題にどうクリエイティブを導入するか、なんです。

KIITOの未来

KIITO開館当初は、僕自身がそれまでにやってきた「イザ!カエルキャラバン!」のような活動とKIITOの活動がパラレルに動いているところもあったので、今もKIITOでの震災関連プロジェクトを立ちあげると僕がやっているものだと勘違いされることもあります。けど、実際はもう企画から実施までスタッフにまかせているものが多いですね。僕が手がけるものは教育的な志向性が強いのですが、たとえば、スタッフの大泉さんが始めた「災間スタディーズ」だと、アーカイブの意識がより強いかな。そうした広がりもKIITOらしいと思っていますし、KIITOが開館から築きあげてきた場の力、ネットワークを活かした上で、次の世代のスタッフたちがどんどん新しい企画を立ちあげてくれたらいい。KIITOにはもうそれだけの素地があるはず。

災間スタディーズ： 震災30年目の分有をさぐる

神戸だけでなく東北や新潟などの震災を経験した地で行われた活動、それによって生まれた記録や表現をリサーチ、その可能性をさぐるもので、ディスカッションやワークショップを展開。集めた手記や資料を閲覧できるスペースもKIITOに設けている。災間文化研究会との協働プロジェクト。

<https://kiito.jp/schedule/project/articles/68061/>



震災にまつわる その他の活動

阪神・淡路大震災20年・ 語り継ぐこと／リレートーク

阪神・淡路大震災20年の節目に、被災地エリアの文化施設での震災関連事業として、各館担当者が会場をリレートーク形式でつなぎ震災を語り継ぐことを目的に行われた。連携館：明石市立文化博物館、芦屋市立美術館、C.A.P.、神戸アートビレッジセンター（現：新聞地アートひろば）、神戸ファッション美術館、神戸ゆかりの美術館、BBプラザ美術館、兵庫県立美術館

<https://www.facebook.com/relaytalk/>

わたしは思い出す 10年間の育児日記を再読して

東日本大震災から10年の節目に、せんだい3.11メモリアル交流館で開催された展覧会。AHA! [Archive for Human Activities / 人類の営みのためのアーカイブ]の企画、ひとりの女性が綴った11年間の育児日記の再読をとおして紡がれた30万文字の記録から成る本展は、「震災」ではなく「わたし」を主語とすることで、鑑賞者が自分と作品を重ねて鑑賞することを可能とし、経験の有無や居住地、性別などの境界をほぐす試みであった。神戸展では、建築家ユニットのdot architectsが手がける新たな会場構成で展示したほか、写真資料のスライドが展示された。

<https://kiito.jp/schedule/exhibition/articles/52538/>



波のした、土のうえ in 神戸

映像作家の小森はるかや画家作家の瀬尾夏美のアートユニットによる展覧会。東日本大震災をきっかけに移住した岩手県陸前高田で出会った人や出来事を、映像や言葉やドローイングなど、2011年からのおよそ4年間でつくられた作品群によって構成された。せんだいメディアテーク（仙台市）での開催以降、盛岡、神戸、東京、新潟、広島、秋田へ巡回。KIITOでは鷺田清一、濱口竜介らとのトークも開催した。

<https://kiito.jp/schedule/exhibition/articles/22696/>



KII+O: NEWS & TOPICS / 2025 Winter

What's on

つくることの自由と可能性について考える

デザイナーやアーティストと協働しながら本や展覧会をつくる、グラフィック・デザイナーの秋山伸と堤あやこによる出版レーベル/デザイン・ユニット「エディション・ノルト」による展覧会を開催します。会場をファクトリー＝工場に見立て、「共同でつくる」ことを実践しながら、生み出す＝生産する場として、会期中も変化し続ける展覧会を試みます。

エディション・ノルト 「ファクトリー KIIIMITO」

日時：2025年3月15日（土）～5月6日（火・祝）
会場：1F クリエイティブスタジオ
入場無料

©「エディション・ノルト」ファクトリー-dddd:
被包摂、絡合、派生物」フェーズ1
京都 ddd ギャラリー/京都/2023
Photo: Kyotoshi Takashima



News

KIITOをもっと知れる全館イベントが今年も!

入居するデザイナーや建築家などのオフィスの特別公開、ワークショップ、物販、館内ツアーなど、様々なイベントを通してKIITOの魅力を発信する全館イベント「オープンKIITO」を今年も開催! 子どもから大人まで、KIITOのことを知って、楽しめるプログラムが盛りだくさんの1日です。ぜひ遊びにきてください。

オープンKIITO2025

日時：2025年3月1日（土）11:00～16:00
会場：KIITO館内各所
入場無料
（ワークショップや物販など一部プログラムは有料）



© 菊池文也

Report

工作の伝道師「わくわくさん」と防災工作を体験

阪神・淡路大震災から30年を契機に、子どもの創造性を育む「KIITO:300キャンプ」の取り組みとして、NHK Eテレ「つくてあそぼ」でもおなじみのわくわくさんこと、久保田雅人さんを招いた「親子防災工作教室」を開催しました。圧巻のパフォーマンスに子どもたちも大喜び。工作の技を学びながら、防災に関する知識を親子で学ぶ機会になりました。

親子防災工作教室

日時：2025年1月13日（月・祝）
会場：KIITO:300
講師：久保田雅人、永田宏和

